

# 活動報告書

報告者氏名： 高橋和秀

所属： 上菅田特別支援学校中学部

記録日： 2013年2月27日

## 【対象児（群）の情報】

- ・学年 中学部3年生の男子生徒1名
- ・障害名 肢体不自由
- ・障害と困難の内容

対象となる生徒は、発語はないが、「トーキングエイド」というコミュニケーションツールを使用して学校生活を過ごしていた。トーキングエイドによるひらがなの打ち込み、音声の不具合などの点で、実際のやり取りを行うには時間がかかり、漢字変換の精度も低いため認識することに不十分さを感じていた。また、トーキングエイドは大きく、重たいため、使用するときには支援を行うことも大変であった。

## 【活動目的】

- ・当初のねらい

声に出して伝えたいことがあるのに、伝えられないというもどかしい気持ちを少しでも解消できれば、もっと伝えようとする力＝コミュニケーション能力がついてくる。生徒が気軽に使用できて、他者とのやり取りがスムーズに行うことができれば、生徒の意欲が高まり、社会に適応していくことができると考える。使いやすさ、携帯性、音声出力、文章入力などほとんどすべての点において、iPadは性能に優れている。高価なアプリを使用することも検討したが、**有料アプリ「かなトーク」**や**「メモ」**、「メール」などを活用することで、できる限りの向上を図ることとした。

- ・実施期間

平成24年4月～平成25年3月

- ・実施者

高橋和秀

- ・実施者と対象生徒の関係

グループ学習の担当

## 【活動内容と対象生徒の変化】

- ・対象生徒の事前の状況

トーキングエイドを常時携帯することが難しいため、トーキングエイドを使用できないときには、車いすのテーブルにある**文字盤（ひらがな表）**を指さししながら介助者に伝えるようにしていた。しかしながら、説明が難しかったり、伝えたいことが上手く伝わらなかったりすることが多い、というようなコミュニケーション面での不安を抱える日々を過ごしていた。

- ・活動の具体的内容

iPadを国語、数学、英語などの教科学習で使用する。  
スケジュールを記録したり、宿題として日記をつけたり  
することを家庭でも実施した。



図1：文字盤

## ・対象生徒の事後の変化

国語の作文では、家での宿題や夏休みの思い出などを文章に表すことができた。無料アプリ「DraftPad」では、文字の大きさも変えることができるので、タップするときには非常に見やすく押しやすい。また、履歴が残るため、考え方や訂正の様子が第三者からも見てわかるようになっている。



英語の学習ではiPadが英語の単語を音声で読み上げることで、ネイティブの英語の教員にも英語が伝えることができた。生徒が英文を入力することで記録が蓄積されていくため、単語を覚えたり文章の流れを認識したりすることができた。

数学ではアプリ「計算機 無料」を使用すると計算の流れが履歴に残るため、どこで入力を間違えたのか確認することができたので、繰り返しの学習で弱点を克服した。



## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき

学習面では、国語の作文で家での宿題や夏休みの思い出などを文章にして音声で発表することができた。漢字変換の語彙も豊富なため、正しい漢字を覚えながら、文章を作るようになってきている。

このように、学習面でのiPad使用により、学習に対する姿勢が前向きになり着実に効果が表れてきている。

### ・エビデンス（具体的数値など）

平成25年2月の時点で、国語の学習でレポートを書いたところ、A4用紙で5枚分の文章を書くことができた。※「トーキング」では、このような長い文章を打つこともなかったし、保存することもできなかった。宿題の日記のほかに、家庭では、親戚にメールのやり取りをしてコミュニケーションをとるようになった。遠くはなれていてもメールを打つことができ、表現も豊富になった。

アプリ「計算機」を使うことで、4桁の足し算、引き算などの計算ができるようになった。

### ・その他エピソード

さまざまな場面でiPadを活用する場面が見られるようになってきた。

お昼の放送の当番では、放送室へiPadを持っていき、あらかじめ打ち込んである

原稿を放送している。有料アプリ「かなトーク」の音声出力機能を用いて放送すること

で、自分のおすすめの曲を流すことが意欲につながり、放送当番を楽しみながら取り組んでいる。また、9月に行われた運動会では、放送係としてiPadに原稿を打ち込み、音声をマイクで放送することができた。事前に何度もチェックして、スムーズに音声を出力できるようにしたことで、当日も自信を持って放送係を務めることができた。購入した頃はiPadでの入力に苦手意識を持っていたが、2か月もすると両手の人差し指で快適に操作を行っている。また、iPadの他の機能、例えば「カメラ機能」を使って、友だちや教員を誘って写真を撮るなど、積極的な行動が見られるようになってきた。



図2：iPadを使う様子

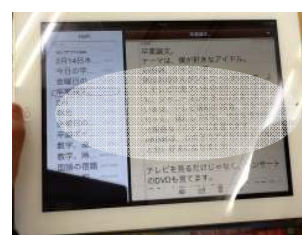


図3：レポートの様子